

「未来の担い手育成プログラム研究指定校」事業報告書(2年次)

1 学校名等

学 校 名	綾部市立何北中学校				校長名	奥澤嘉久
研究主題	地域に学び、地域に貢献し、夢を実現する生徒の育成 ～課題解決型学習を通して、認知能力と非認知能力を一体的に育む教育活動～					
研究の目的	「自ら学ぶ力」「人と関わる力」「想像する力」の弱さという課題を克服するために、正解のない問いを的確に捉え、自ら学びを計画し、他者と協働しながら学ぶ経験を積ませることが必要だと考える。そのために認知能力と非認知能力を一体的に活用して課題を解決する課題解決型学習を軸とした取組を実施し、主体的に学び、仲間と協働し、自分の考えを豊かに表現する力や挑戦する力を育成する。					
学 年	1年	2年	3年	特別支援	合計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	1	1	1	1	4	13
生 徒 数	16	9	12	1	38	

2 研究校の概要(生徒の実態、学力状況(分析)、研究体制等)

(1) 生徒の実態と研究課題

素直で、穏やかで、諸活動は協力し合い、全員で取り組んでいる。そのなかで、与えられた課題や自分ができそうな課題には意欲的に取り組むことができるが、他者と協働して課題を解決していく力や自分の考えを豊かに表現する力をもっと付けていく必要がある。また、全国学力・学習状況調査や京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の質問調査、校区独自で継続して行っている「何北ブロックいきいきアンケート」の結果等からも、「自ら主体的に学ぶ力」「人と関わる力」「想像する力」に弱さが見られ、それらの基盤となる自己肯定感の低さも課題である。

研究指定が2年目となり、昨年度の成果と課題を踏まえ、生徒の実態に合った、課題解決型学習を通して、「学び」を深め、認知能力と非認知能力を一体的に育もうという考えのもと研究を進めた。

(2) 研究体制

昨年度に続き、校内研修で課題解決型学習の研修を行い、各教科や領域でどの教員も、この手法を取り入れた授業ができるように努めた。また、日々の授業に生かすための校内授業研究会も行った。今後は、その交流をさらに活発にしたり、学年や教科をまたぐ系統的な計画を立てたりする必要があると考える。

3 主な研究活動

独自の取組として、「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」を2年生のゴールとすると共に、1年生の取組のスタートと位置付けて全員に参加させた。さらに、「何北ドリカム DAY(何北ブロック一貫教育合同会議参観日)」での発表や綾部市独自のキャリア教育とリンクさせ、1年生から積み上げていこう、学習内容を検討しつつ実践を進めた。

<2年生>

◆5月:昨年度グンゼ株式会社からいただいた「10年後の時代に合ったインナーウェアを創造してください」という問いに取り組むためのアイデア出しとアンケート作成をした。



自分の考えを簡単にまとめてみよう！	
キーワード (自由に書いてください)	課題解決のためのアイデア
キーワードが持つ意味や特徴	
解決すべき課題 (100字程度で書く)	

10年後の時代に合ったこちよいインナーウェアを創造しよう

1. 課題を整理しよう (自分の課題はどんなものか)

2. キーワード

3. キーワードが持つ意味や特徴

4. 解決すべき課題 (100字程度で書く)

◆6月:神戸芸術工科大学の先生や学生の方々に「こちよさ」の定義と「布・テキスタイルの種類」について講義いただいた。また、「10年後の時代」を予想するアンケート調査を行った。【計30人】



◆7月:「10年後の時代」を予想するアンケート結果をもとに、グループとテーマを決定した。ワークシートを使用して、意見を出し合い、具体的なイメージを膨らませた。



10年後の時代に合ったこちよいインナーウェアを創造しよう

1. 課題を整理しよう (自分の課題はどんなものか)

2. キーワード

3. キーワードが持つ意味や特徴

4. 解決すべき課題 (100字程度で書く)

◆9月:グループごとにインターネットや資料を使用して課題解決に向けた学習を行った。研究に係る訪問時に途中経過を見ていただいた先生方からのアドバイスも参考にしながら練り直しを進めた。



自分の課題について

課題を整理しよう (自分の課題はどんなものか)

1. 課題を整理しよう (自分の課題はどんなものか)

2. キーワード

3. キーワードが持つ意味や特徴

4. 解決すべき課題 (100字程度で書く)

◆10月:「何北ドリカム DAY (何北ブロッケー貫教育合同会議参観日)」で取組を通して、自分達が付けた力やその活動内容を発表した。また、自分達の考えを裏付けるためのアンケートを作成した。



10年後の時代に合ったこちよいインナーウェアを創造しよう

1. 課題を整理しよう (自分の課題はどんなものか)

2. キーワード

3. キーワードが持つ意味や特徴

4. 解決すべき課題 (100字程度で書く)



◆11月:身体の動きについて佛教大学保健医療学部作業療法学科の先生と学生の方々に講義していただき、インタビューにも応じていただいた。また、情報収集を行うため、京都市内で調査活動(アンケート調査)を行った。学校のHP等にも二次元コードを掲載し、1人でも情報収集ができるように努めた。【計220人】事後、結果を集計・分析し、それぞれの課題解決の資料とした。



◆12月：グンゼ株式会社の方々に各グループの提案を聞いていただいた。（上旬と下旬：計2回）その場で、直接アドバイスと励ましの言葉をいただき、違った視点からもう一度課題を捉え直したプレゼンテーションを完成させた。また、冬休みには各々で発表練習を行った。



◆1月：2年生全グループの成果を発表する校内発表会を行った。1年生を招き、来年度、課題に取り組むイメージが持てるようにした。



◆2月：綾部市主催の「中学生“みらい”会議」にて代表チームが1年間の取組の成果を発表した。また、「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」に向けた最終調整として、代表グループ以外の生徒も自分達が予選審査で評価していただいた点を代表グループの発表に取り入れられないか、発表原稿をよりよくできないか推敲を重ねた。



<1年生>

◆1月～：福知山公立大学に行き、マインドマップやKJ法によるグルーピング等の課題解決のための話し合い活動の効果的な手法と進め方を教わった。また、グンゼ株式会社を訪問し、会社の歴史と精神を学び、その上で来年度解決すべき課題をいただいた。



4 今年度の研究の成果と検証(生徒、教職員、学校、家庭・地域社会の変容等)

(1) 認知能力の向上に関して

「未来の担い手育成プログラム」と「何北ドリカム DAY(何北ブロック一貫教育合同参観日)」、「中学生“みらい”会議」を連動させて取り組ませたことで、一度きりで発表が終わるのではなく、さらに熟考したり、励ましや助言をもらえたりする機会が増え、より良いものにしようと努力することができた。

また、課題解決型学習の手法を学ぶことで、自分の意見を伝える、他者の意見を聞く、そして協働して課題を解決するという主体的で探究的な学びにつながる学習機会を作り出すことができた。特に昨年度取り組んだ3年生は文化祭の演劇等の話し合いの場面において、主体的・意欲的に活動し、付けた力を発揮する姿が見られた。

(2) 非認知能力の変容に関して(学習と生活等に係るアンケートの分析)

質問項目(抜粋)	6月実施	11月実施	変容
	肯定的な回答		推移
① 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。	53.8%	65.3%	向上
② 自分で計画を立てて、家で勉強をしている。	69.2%	57.6%	低下
③ 授業の中での、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	53.8%	73.1%	向上
④ 自分と違う意見について考えるのは楽しい。	57.6%	61.5%	向上
⑤ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表する活動に取り組んでいる。	80.7%	84.6%	向上

以上の結果から、取組によって自己肯定感が向上していることが分かった。また、6月時点で「どちらかという当てはまる」と肯定的だった回答が「当てはまる」に変わっている生徒も多い。ただ、②の項目の低下が課題であり、取組以外の場面でも「やってみたい」「これはどうか」と考えられるような「主体性」を持たせたり、自己調整力を向上させたりする工夫が必要と感じられた。

5 今年度の課題

今年度の課題は「表現力」と「自主性」である。改善の手立てとして聞き手を意識した表現活動(話し方や伝え方など)について、各教科・領域のなかで長期的にアプローチをしていく必要がある。また、意欲を生み出す仕掛け作りも必要である。(学年を越えた合同授業など)

例) 国語科

1年:原稿を作成する。原稿にまとめたことを伝えることができる。

2年:メモを作成する。メモを参考に、相手や場に応じたプレゼンテーションを行うことができる。

3年:即興で伝えたり、質問に答えたりする場面において、相手が納得する説明ができる。

(※できれば他学年を混ぜて)

6 来年度の研究構想

(1) 課題解決型学習の手法を用いた学習機会を教科・領域で意識的に持つようにする。

(2) 質問調査やアンケート調査で数値化した効果検証を継続して行う。

(3) 情報の収集や活用できる能力が学びの主体性につながり、自己の生き方を考えることのできる総合的な学習の時間の在り方について考えていく。